

## 「あなたの足」 ～満足に進むため～

創世記12：1～3  
申命記11：24～28

4月になり、新年度になりました。環境に変化がある人もいるかと思います。私たちは今年目標を着実に実行しているでしょうか。(創世記12：1～3、申命記11：24～28) アブラハムは今までの安住の地から出て、神の示す地へ行くように言われています。今日は「足」について見ていきたいと思います。私たちは「満足」しているでしょうか。神は私たちを満すことのできる方です。神の国と神の義を第一にしていれば、生活における必要は満たして下さる方です。しかしよく考えてみると、「あれもない」「これもない」と考えてしまいます。人は不足に目がいきやすいのです。不足を探す事が得意です。では神の満足とはどのようなものなのかについて考えてみたいと思います。人は物質的に豊かになれば満足すると思って生きています。ある人は「車が買えれば満足する」と思って買ってみました。次の車がほしくなります。家を手に入れても同様です。物質を求めている時には満足したと思えません。誤解をはいけません。ソロモンはこの世の富はすべて手にした王です。富が悪いわけではありません。それを手にする人がどのように受け取っているのかが問われてきます。私たちは富や祝福の概念を変える必要があります。聖書に戻りますが、アブラハムはどの地へ行っても富んだものとなりました。アブラハムは祝福されました。ではアブラハムの祝福は何のためにあったのでしょうか。その祝福がモーセに引き継がれ、ヨシュアに引き継がれていきました。この祝福は自分の家族や民を導くためでした。今日では教会をさしています。自分に与えられた富は教会を形成していくために与えられているのです。「満足」とは「足が満ちる」と書いています。聖書は「足」に大切な意味を持たせています。足は人の行動全体を表現しています。「足がよろけた」とは行動に安定を欠いた人をさしています。そして敵に勝利をした時に、相手の頭の上に足を置きました。「わたしがあなたの敵をあなたの足台とするまでは、わたしの右の座に着いていよ。(詩篇110：1)」足とは私たちの土台です。信仰の土台です。私たちの足は自分の召しに従い、主の家を建てるためにあります。私たちがこの地上で「満足する」には私たちの周りにいる人々の人生が変わることで満足をする事ができます。周りの人を評価する目から、何が必要であるのか見つめていく所が教会です。私たちは主の家を建てるために生かされているのです。ソロモン王も民を導くために知恵を求めました。それにより、神は物質も満たして下さいました。ソロモンの信仰の結果です。(使徒7：46～51) 私たちは自分の信仰の土台の上にとしっかりと立たなければなりません。私たちは周りの人の道しるべとならなければいけません。本当の満足に進むために①道筋に心を配る(箴言4：26～27) 定めるとありますが、これは決めるということです。まず最初に道筋を決めなくてははいけません。すなわち自分がどのように生きるのかを決めることです。そうしなければ、私たちの歩みは安定を欠いたものとなり、足元をすくわれてしまいます。人と接する時、いつも聖書に根ざした答えをしていきましょう。私たちは神が言っていないことを言ったように記憶を置き換えてしまいます(創世記2章、3章) エバは神との約束を変えていました。悪魔の罠にかかってしまったのでした。私たちの道筋はイエスキリストの姿を表すことです。それを変えてはいけません。これからそれてしまうと足元をすくわれてしまいます。道筋に心を配っていきましょう。本当の満足に進むために②高ぶるな(申8：7～20) 私たちが何かよいことを下から、祝福を受けるわけではありません。神と人との契約により、豊かになります。私たちが豊かになることによって神から離れるような事があったのであれば、神の祝福は無駄になってしまいます。私たちには与えられているだけなのです。主はいつでも、取る権利があります。それを忘れてしまう事が高ぶることになります。私たちの本当の満足は私たちの教会がおこること、それは私たちを通して周りの人が救われていくことです。満足を得るところをこの世で得る事のできる物質的なものから、私たちの周りの人々が永遠の救いを得る所へと変えていきましょう。この世の欲に生きていくと最後は滅びることになります。聖書の歴史はそれを教えています。注意して歩いていきましょう。③福音の備え(エペソ6：13～18) 私たちは「平和の福音の備え」をはくように言われています。「良い知らせを伝える者の足は山々の上にあって、なんと美しいことよ。平和を告げ知らせ、幸いな良い知らせを伝え、救いを告げ知らせ、「あなたの神が王となる」とシオンに言う者の足は。(イザヤ52：7)」“平和の福音の備え”とは、良い知らせを伝えることです。主が良くして下さった事をいつでも伝えることができるように準備しておくということです。私たちはすぐ不足に目がいきがちです。私たちに与えられているものは私たちの生活のためではなく、私たちの建てていく教会のためであることを忘れてはいけません。それぞれ遣わされているところがあります。そのところで教会を建てていきましょう。それが私たちの得ることのできる最高の「満足」なのです。私たちの人生は日々の中で、他人からの評価や富、地位、名誉を得ることでは「満足する」ことはできません。私たちの教会をもういちど立て直していきましょう。(要約者：平澤一浩)